

クルーズサマリー

1. 航海情報

(1) 航海番号： YK22-17C_leg1

(2) 使用船舶： よこすか

(3) 航海名称

新たな海洋保護区（沖合海底自然環境保全地域）管理のため の深海を対象とした
生物多様性モニタリング技術開発

(4) 首席研究者

藤原 義弘（海洋研究開発機構）

(5) 課題代表研究者

JC22-03 藤倉 克則（海洋研究開発機構）

(6) 研究課題名

JC22-03 新たな海洋保護区(沖合海底自然環境保全地域)管理のための深海を対象とし
た生物多様性モニタリング技術開発

(7) 航海期間

2022/09/18 - 2022/09/25

(8) 出港～帰港

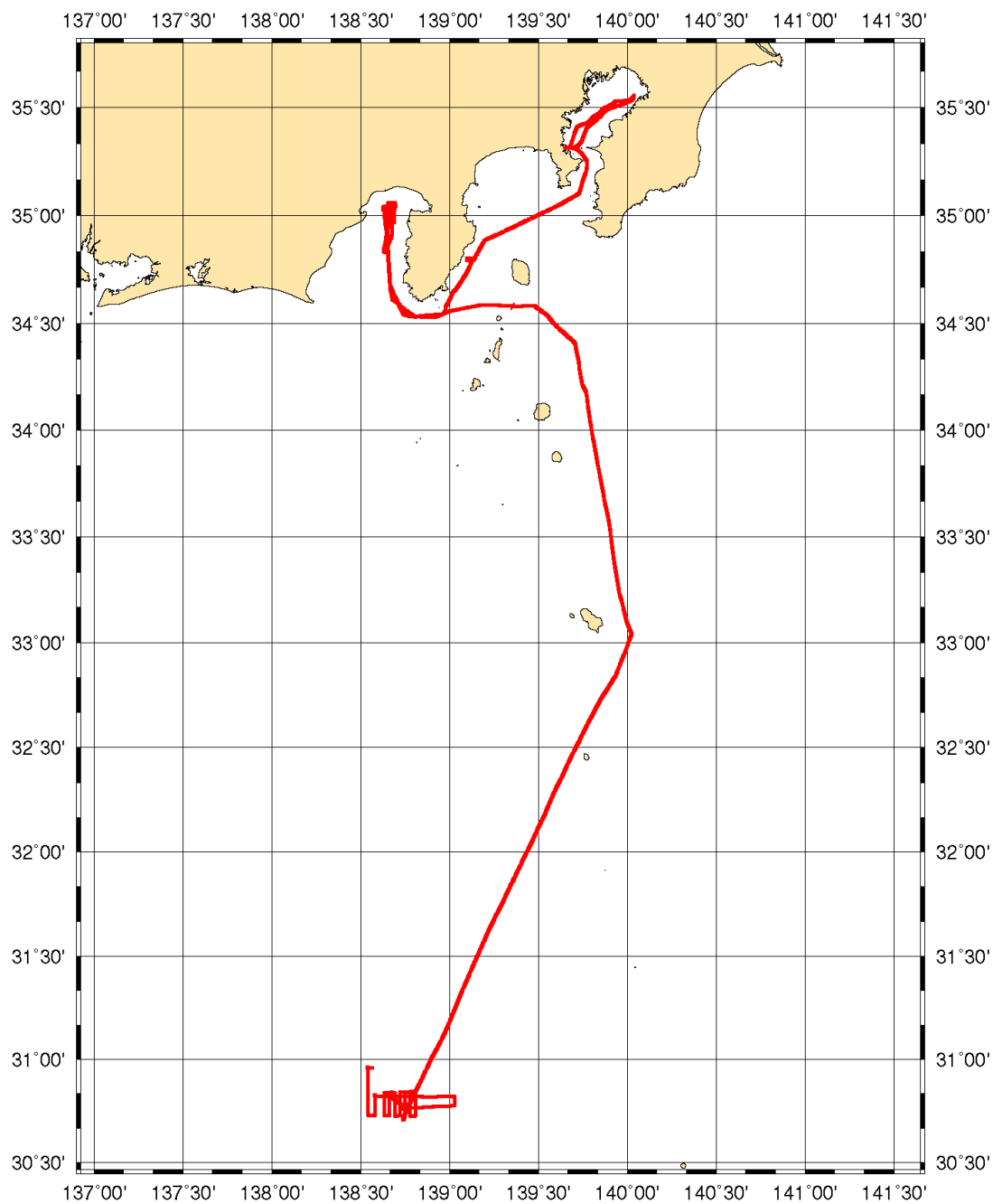
横須賀港 JAMSTEC 専用 1 号栈橋 - 洋上切替

(9) 調査海域

宝永海山、駿河湾

(10) 航跡図

YK22-17C_Leg1 Nav Track



2. 調査概要

沖合海底自然環境保全地域のモニタリングを実施するための新たな手法を開発するために、2022年9月21日から9月25日にかけて、駿河湾および沖合海底自然環境保全地域である西七島海嶺において調査航海を実施した。台風の影響を避けるため、まず予備海域の駿河湾で「しんかい 6500」潜航調査1回、ベイトカメラキャスト1回、ランダーキャスト1回を実施した。その後、西七島海嶺・宝永海山基部にて「しんかい 6500」潜航調査1回、ベイトカメラキャスト1回、ランダーキャスト1回した。新たに開発したランダーにはニスキン採水器3本、大量海水ろ過システム2台、堆積物コアサンプラー3台、各種物理化学センサー、ビデオカメラを搭載して駿河湾の水深1200 mおよび宝永海山基部の水深2178 mに設置し、海水、柱状堆積物、大量海水濾過物の採取に成功したほか、ビデオ撮影や各種物理化学データを取得した。またベースライン情報を得るために、「しんかい 6500」潜航調査によって約100サンプルの生物試料、堆積物、海水、ビデオ映像、静止画を取得した。